

平成 28 年度福井県計画に関する 事後評価

**令和 7 年 1 月
福井県**

3. 事業の実施状況

平成28年度福井県計画に規定した事業について、令和5年度計画終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1. 病床の機能分化・連携に関する事業	
事業名	【No.1(医療分)】 地域包括ケア病院等整備事業	【総事業費】 257,436千円
事業の対象となる区域	福井・坂井、丹南	
事業の実施主体	医療機関	
事業の期間	平成28年4月～令和7年3月 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 / <input type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	急性期を脱した患者や中・軽症患者を受け入れる病床が少なく、病床の機能分化・連携が進んでいない。地域に回復期病床を整備する必要がある。 〔27年度病床機能報告〕 回復期病床： 福井・坂井 620床 丹南 232床 高度急性期病床の患者(3,841人)の退院先 自宅 2,068人 転院 167人 転棟 1,456人 その他 150人	
	アウトカム指標：地域医療構想上整備が必要な回復期病床の確保 福井・坂井 2015年：620床 → 2025年：1,502床 丹南 2015年：232床 → 2025年：577床	
事業の内容（当初計画）	急性期の病院から在宅復帰を目指した患者を受け入れ、リハビリや継続的治療を提供しながら在宅復帰を目指す病棟を整備する。 また、高度急性期機能を担う救急医療機関に対する設備整備や、病床を削減し外来診療を強化・充実する場合の施設・設備の整備、急変した在宅療養者の受入れに必要な施設・設備整備を支援する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	病床の削減に取り組む医療関数：R5 3機関	
アウトプット指標（達成値）	病床の削減に取り組む医療関数：R5 3機関	
事業の有効性・効率性	観察できた（病床機能報告 2023.7.1時点病床数） 一般・療養病床が前年度に比べ▲134床（6,993→6,859）削減された。 回復期病床が前年度に比べ87床（1,502→1,589）増加した。	

	<p>(1) 事業の有効性 中核的な病院等から回復期の患者を受け入れるための病棟整備や在宅療養患者の急変時の受入れ体制の整備が一定程度進んだ。</p> <p>(2) 事業の効率性 病院・診療所の再編等に併せ、効率よく回復期病棟等の整備を進めることができた。</p>
その他	<p>(年度別基金活用実績)</p> <p>H29 : 34,302 千円 H30 : 187,935 千円 R5 : 35,199 千円</p>